

みんなで踊ろう！ダンス教室で地域国際化

団体名 FINAL FLASH

代表者名 高野 駿

① 事業内容

八王子市国際化推進プラン検討委員会によると、八王子市には23大学等に約3,100人もの留学生が在学しており、多文化共生社会の実現に向けて欠かすことのできない存在となっている。本事業ではそんな留学生と日本人学生がダンスを通じて交流できる場をつくり、両者による国際的なコミュニティの形成、地域の国際化を目指した。

また本事業では小中学生も対象にした。彼らはコミュニティが限定されており「自分の好きなものをみつける場」というのは少ない。学校の勉強や部活動以外でも自分の自信や強みに発展する可能性をもつものがあるにもかかわらず、興味関心を広げる機会が十分ではない。そこで本事業ではダンス教室や交流会を実施し、「ダンスとの出会いの場」「英語や中国語母語話者との出会いの場」「大学生との出会いの場」をつくることを試みた。

事業は具体的に以下のスケジュールで行なった。

表1 事業スケジュール

6月	・係分担等に係るミーティング
7月	・告知方法やダンス教室・会話会の具体的な内容等に係るミーティング ・実施場所の確保 ・告知のビラ作成・配布 ・必要な機材、備品の調達
8月	・第1回ダンス教室・会話会の実施 ・アンケート
9月	・第2回ダンス教室・会話会の実施 ・アンケート

② 実施報告

まず、8月に行う予定だったダンス教室・会話会は

告知が間に合わなかったため翌月に繰り上げ、結果的に9月に2回行なうことになった。実施日は第1回目が9月9日、第2回目が9月10日である。また、今後の課題として後述するが、留学生の参加を望めなかったため、会話会は行わず、両会ともにダンス教室のみの開催となった。

以下(写真1,2)は告知に用いたビラである。



写真1 小中学生に向けたダンス教室のビラ



写真2 留学生に向けたダンス教室のビラ

ビラの通り、ダンス教室ではプロの講師を招いて1日目がBREAKのレッスン、2日目がHIPHOPとLOCKのレッスンを行なった。

結果的には34人の参加者を募ることができた。その内訳は小学生15人、中学生10人、大学生9人である。当初40~45人程度の参加者を見積もっていたため、留学生を除いた数としては概ね見込み通りの結果となった。以下(写真3,4)は参加者と講師でダンス教室終了後に撮影した写真である。



写真3 BREAKのレッスンの受講者



写真4 HIPHOPのレッスン受講者

ダンス教室が終了した後、今後の事業実施に生かすため、受講者にはダンス教室に関する任意のアンケートに答えてもらっていた。一部抜粋すると受講者からは以下のような感想が得られた。

Gさん(中学生):「ダンスはやっぱり楽しい!」

Yさん(小学生):「楽しかった!!」

Iさん(大学生)「友達増えそうですね。」

※すべて原文ママ

今回は当初予定していた留学生の参加は残念ながら得られなかったが、八王子市在住の小中学生および大学生がダンスを通じて交流するイベントを行なうことができた。また、上のような感想が得られたことから参加者にダンスの魅力を伝え、興味や関心を広げることができたのではないだろうかと考えている。

③ 事業を実施した感想

本事業では八王子市在住の小中学生に「ダンスとの出会いの場」「大学生との出会いの場」を作ることができた。しかし、事業を行なう過程で複数の問題が見えた。事業の感想とともにそうした今後の課題を述べてい。

まず、事業実施場所の確保に関してである。当初は駅から近くアクセスのよい八王子市文化会館での実施を予定していたが、実施日程を決めて申し込もうとしたところ、既に埋まっていた。実施日程を変更することができなかつたため、実施場所を変更したが、それに伴ってアクセスが悪くなってしまった。地域の方に参加してもらう今回のような事業において、実施場所が不便であるということは致命的問題になりかねないため、具体的な実施日の早期決定や実施場所の予約開始時期確認は優先度の高い事項であると感じた。

次に、告知方法に関してである。日本人用のピラ(写真1)は実施場所が確定した段階で作成し、SNSにアッ

プしたり南大沢の塾に置かせてもらったりするなどして告知に利用してきた。さらに、外国語に興味を持つ小中学生が多数参加する「明星サマースクール」という明星大学で行われるイベントでも告知させてもらった。このように、小中学生や大学生の参加を促すことはできたが、一方で留学生への告知が難しかった。留学生にはSNSや直接の呼びかけ等を行なって告知したが、結果的に留学生の参加者は得られなかった。日本人とほとんど同じように告知したにもかかわらず、このような結果になったのは、留学生が帰国する時期であったことや、実施場所への不便さ、日本語運用への不安などが要因となったと可能性が高い。次回はこれらの点に留意して事業に臨みたい。また、以下はアンケートで得られた参加者の保護者からの意見である。

「ダンスはもちろんですが、音楽やスポーツを通して留学生の方、他国出身の方と触れ合えるようなイベントに期待します。」
※原文ママ

このように、日本人側から他国の方との交流が期待されている。次は留学生だけでなく八王子市在住の外国人全体にまで対象を広げていき、参加者が得られるようにしたい。

私たちの団体にとって今回行なった事業は初めての試みであり、反省点や改善点は多かった。しかし、ダンス教室を開講すると、八王子市の多数の小中学生が参加してくれた。そして、終了後にはうれしい感想をいくつかもらうことができた。イベントを楽しんでもらえたということで、団体としては達成感を得ることができ、成長を実感することができた。

また、事業を終えて改めて感じたのは、やはりダンスは人と人をつなぐツールとして非常に有効で、世代を超えて同時に楽しめる文化資源であるということである。八王子市の小中学生、大学生の中にはダンスに興味がある者が多数いることが分かったため、今回の事業はパイロット事業の位置付けと捉え、得られた反省点や改善点を活かし、次につなげていきたいと考えている。